SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

夏季巡検会の報告：美濃路にウラニウムを訪ねる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 仁美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025142

夏季巡検会の報告
～美濃路にウラニウムを訪ねる～

松　本　仁　美*

8月23日（月）から24日（火）にかけて、岐阜県土岐市、瑞浪市、蛭川村、中津川市を訪ね、一泊二日で行われる。参加者は、14名。
案内は、湯佐泰久博士（核燃料サイクル開発機構）と加藤和男会員（池新田高校）にお願いした。

8月23日（月）

午前11：00に中央自動車道虎渓山パーキングエリアに集合。参加者の確認をした後、2日間の主な日程を、加藤和男会員から受ける。（案内図1、2）

①東濃地科学センター

土岐市にある核燃料サイクル開発機構の東濃地科学センターを訪ね、6月の総会でも講演をお願いした湯佐泰久博士に東濃鉱山を案内していただいた。

東濃地科学センターの簡単な説明を受けた後、地下120メートルにある坑道に入り、そこで行われている様々な研究を紹介していただく。（写真1）

東濃鉱山は、瑞浪層群中のウラン鉱石採集のため調査坑として作られた。しかし、埋蔵量が少なく鉱山として採算が取れないことから、坑道を利用して深層の地下水の動きや性質、ウランなどの物質の移動、坑道掘削が周囲の地層に与える影響など、地下深部における科学研究を進めているそうである。

坑道に入ると、ひんやりとした空気が外の暑さを忘れさせてくれる。坑道は思ったより広く、各箇所に照明や案内表示が掲げられていて、国内外から訪れる見学者の便を考えて作られていた。一時間程の案内であったが、ユーモアにあふれる軽妙な案内に、楽しく見学することが出来た。

②土岐川河原の化石

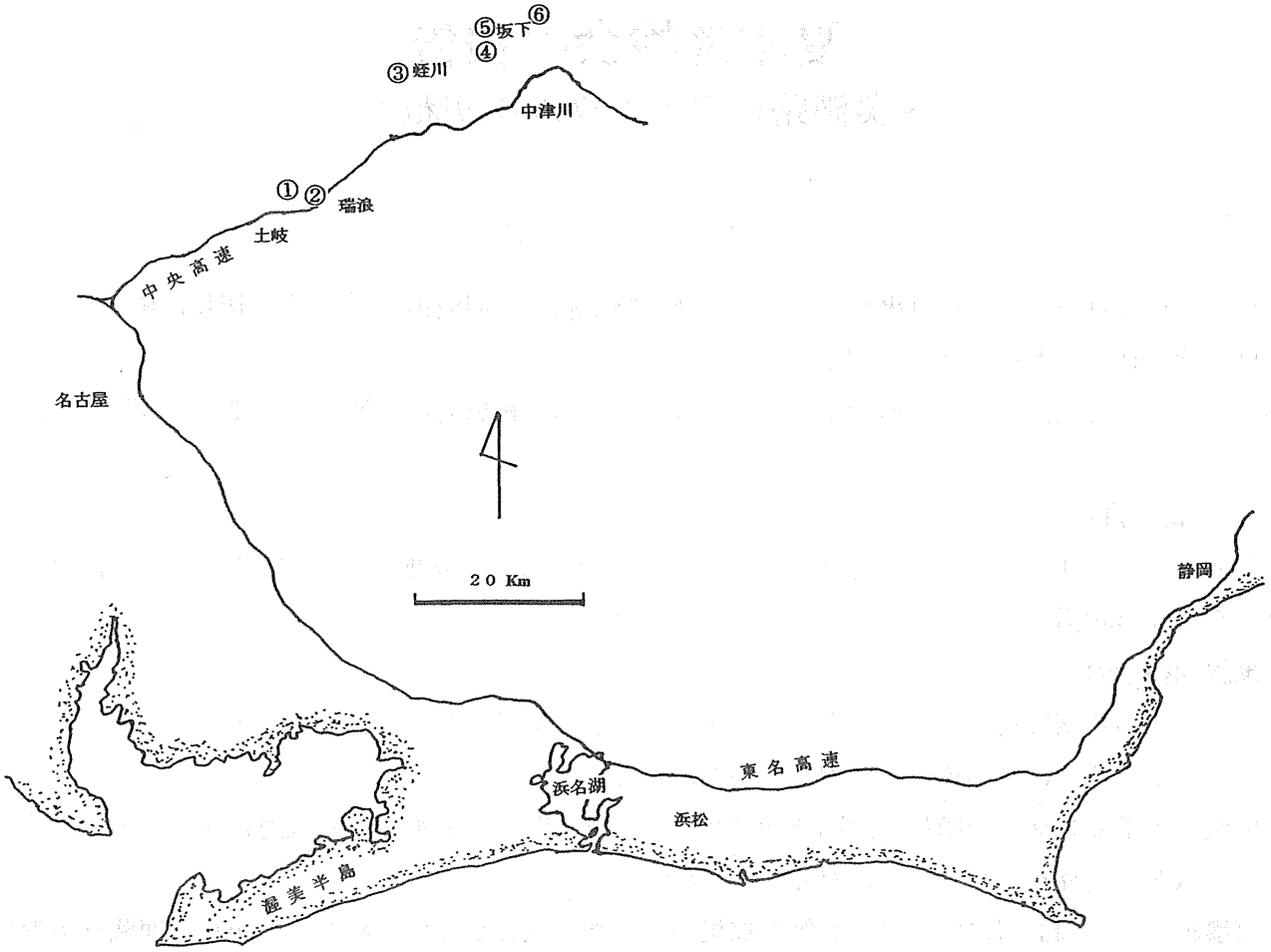
瑞浪市にある瑞浪層群明世累層の化石採集地で、貝化石や植物化石の採集をする。
土岐川の河原に降り、化石を採集するが、あまり保存は良くなく、マテガイ、アサリ等の貝化石と、植物化石をわずかに採集することが出来た。

道路のすぐ脇に露頭があり、すでに何人かの人が採集していた。この地域の瑞浪層群の化石は天然記念物として指定されているため、研究や学習に限り瑞浪市化石博物館の許可を得て採集することができる。

③蛭川村花コウ岩採石場での鉱物採集

宿泊地の紅岩山荘すぐ先の花コウ岩採石場で鉱物を採集した。この一帯に分布する苗木花崗岩は比較的細粒～中粒の黒雲母花コウ岩であるが、この露頭のものは中粒であった。切り出された巨大な花

＊静岡市立一番町小学校



案内図１

コウ岩のブロックに圧倒されながら、機械化がなされていなかった昔の採石はいかがなものであったろうかと、思いをめぐらした。風化を受けマサ化した地域であれば採集は比較的楽であるのだが、新鮮な花コウ岩のため、小さなハンマーとたがねでは採集することは大変であるし時間もかかる。１時間半程度の時間ではよい結晶を探すのはなかなか難しい。それでもペグマタイト中から煙水晶や長石を採集することが出来た。

8月24日（火）

④苗木鉱物博物館見学

昨年オープンした中津川市の鉱物博物館を見学した。中津川市に産出する鉱物を展示してあり、水晶やトパーズ、カリ長石などの大きな結晶に驚く。

標本の見事さだけでなく、鉱物の出来方や付近の地質案内も最近の見地から説明がなされていて、つい時間を忘れて見学してしまった。１年程前に開館したため、まだ研究報告は作成されていないようだが、これから資料が整っていくことを期待したい。（写真２）

⑤中津川市ちんの峠付近での鉱物採集

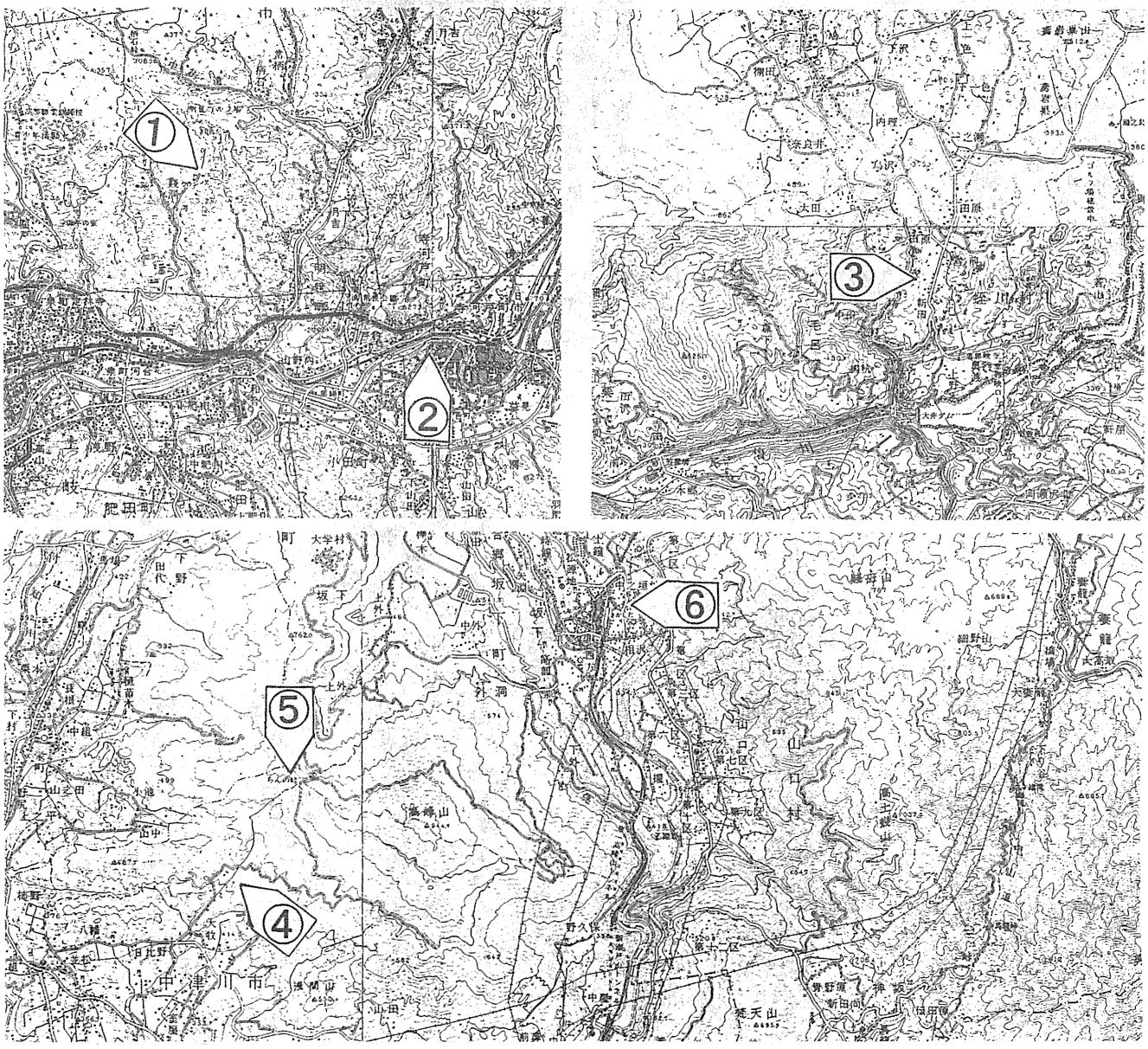
子供のころよく採集したという記憶を頼りに、加藤会員と友人の方に現地まで道案内していただく。

風化した花コウ岩を左右に見て採集地まで小一時間ほど林道を登る。しばらくぶりの山歩きに汗が噴き出す。

道が途切れ少しガレ場となっている地点で水晶や煙水晶の小さいがきれいな結晶を採集することが出来た。かつて苗木で、トパーズを採集したという篠ヶ瀬会員の言葉に胸弾ませたが、残念ながら今回は叶わなかった。

⑥坂下町での阿寺断層見学

中央線坂下駅近くで阿寺断層を見学。駅横の断層崖を見学した。その際、この断層がどの方向に続いているか議論になったため、付近で断層を追ってみることにした。北側への延長を確かめる時間はなかったが、南側には、田圃と道路、民家と田圃との境界に数メートルの高低差を見つけ、おそらくこれが断層の延長であろうという結論になった。



案内図2　国土地理院5万分の1地形図
美濃加茂、恵那、付知、妻籠使用

対岸に断層面が見られるのではと言うことで、工事をしていた付近の高台にあがり断層を探す。残念ながら断層面を確認することはできなかったが、先ほど見た地点の地形が見渡せ、おおよその断層の方向を確認することができた。

以上を持って、２日間の巡検会を無事終えることができた。

２日間の案内や資料作り、宿の手配等をしていただいた加藤会員に感謝します。

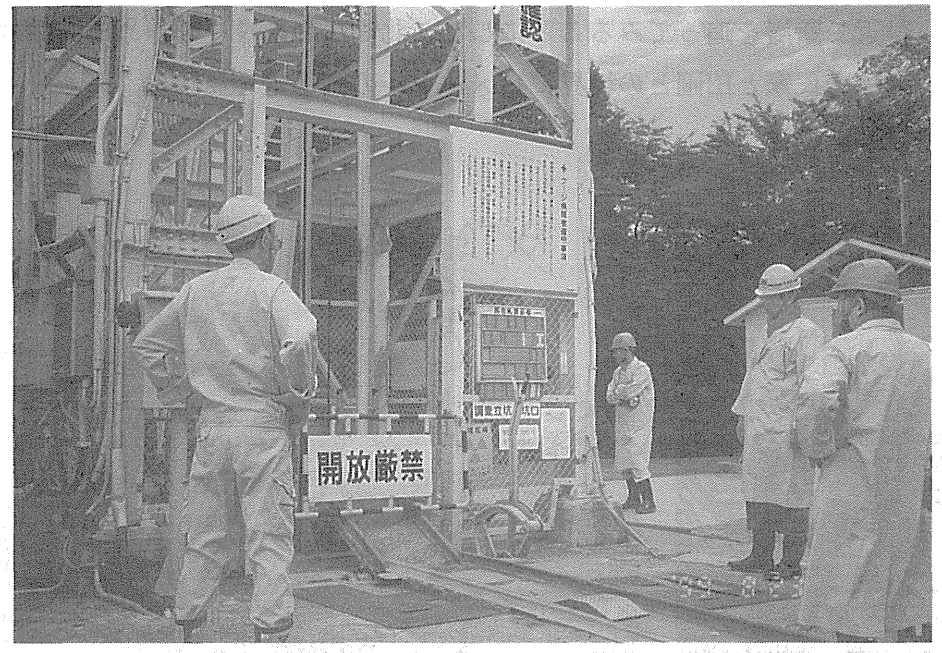


写真１　東濃鉱山、坑道へ降りるエレベーター

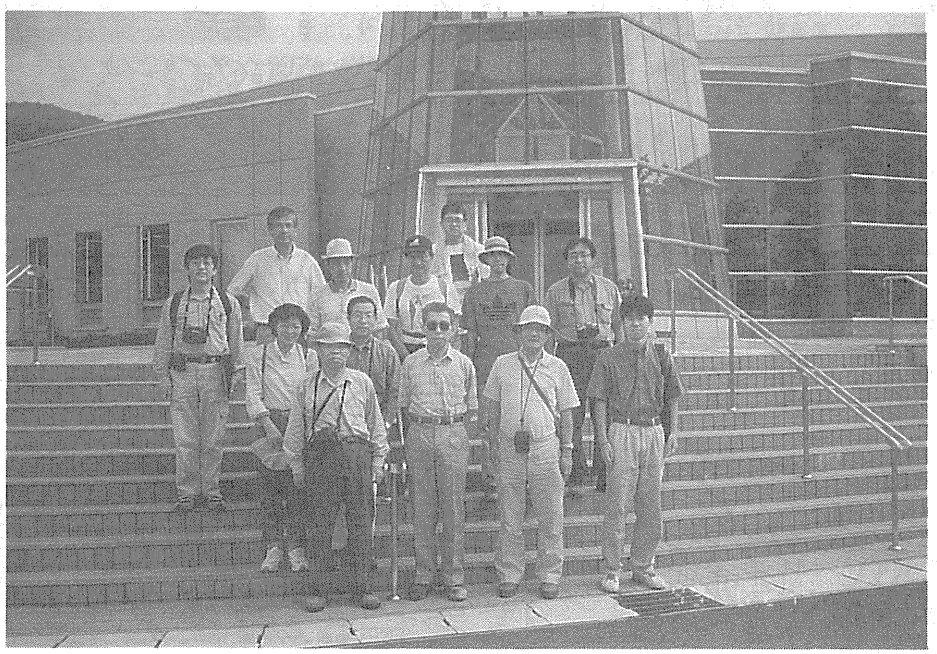


写真２　苗木鉱物博物館前、参加者の集合写真